



新年度もどうぞよろしくお願いいたします！

もうすぐ、田植えがはじまりますね。苗は順調に育っていますか？



1. 令和元年および2年度茨城県の試験研究主要成果を紹介します

1) 「ほしじるし」と「ハイブリッドとうごう3号」で、
倒さずに、極多収を目指しましょう。

目標収量

720kg/10a

「ほしじるし」の極多収栽培法

- ・基肥+追肥体系の場合：「コシヒカリ」慣行栽培に対し、約3～5kgN/10a増肥。
- ・全量基肥肥料の場合：「コシヒカリ」慣行栽培に対し、約4kgN/10a増肥。

「ハイブリッドとうごう3号」の極多収栽培法

- ・「コシヒカリ」慣行栽培に対し、約5kgN/10a増肥。

全量基肥肥料は、
晩生用の銘柄で！

2) 新規系統の育苗箱施用剤（以下の①、②）で、イネ縞葉枯病への高い防除効果が確認されました。また、ヒメトビウンカに③「イミダクロプリド粒剤（IRACコード4 A）」（商品名：アドマイヤーCR箱粒剤など）が効かなくなってきました。

◇「イネ縞葉枯病」とは？

- ・「イネ縞葉枯病」は、ウイルスを持ったヒメトビウンカにより広がる病気です。
- ・症状は、「葉の黄化」「穂の不稔」「穂の奇形」などがみられます。
- ・ウイルス病なので治す薬剤はなく、水稻は生育が妨げられ、減収します。
- ・ヒメトビウンカは、再生稲やイネ科雑草で越冬します。

マニュアル(茨城県版)



●今回、イネ縞葉枯病に対する高い防除効果が確認された新規系統の育苗箱施用剤

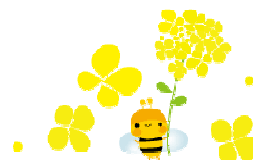
①「フルピリミン粒剤（IRACコード未分類）」～商品名：リディア箱粒剤など。

②「トリフルメゾピリムを含む粒剤（IRACコード4 E）」～商品名：フェルテラゼクサロン箱粒剤など。

注意！ 県南・県西のヒメトビウンカでは、近年、③「イミダクロプリド粒剤（IRACコード4 A）」（商品名：アドマイヤーCR箱粒剤など）に対して、感受性の低下傾向が認められています。前作で、薬剤の効果の低下が疑われた場合は、別コードの薬剤を選択しましょう。

◇◇◇ 普及センターからのお知らせ ◇◇◇

- ・普及センターでの土壌診断は、おおむね月1回実施しています。
- ・毎月20日締め、1経営体5点以内（厳守）でお願いします。



3) 「にじのきらめき」が準奨励品種に採用されました。

中生品種「にじのきらめき」は、高温耐性やイネ縞葉枯病抵抗性を持ち、高品質で、炊飯米の食味は「コシヒカリ」と同等の極良食味であることから、今年3月に準奨励品種に採用されました。

●「ほしじるし」や「にじのきらめき」の品種詳細については、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）のホームページをご確認ください。

[ほしじるし] <https://www.naro.go.jp/collab/breed/0100/0107/012882.html>

[にじのきらめき] <https://www.naro.go.jp/collab/breed/0100/0107/081625.html>



「にじのきらめき」の調査ほ
(R2、つくばみらい市)

4) 県内の一部で「イネばか苗病菌」を抑えられない事例が発生しています。



◇「イネばか苗病」とは？

- ・「イネ縞葉枯病」は、イネ馬鹿苗病菌により広がる病気です。
- ・菌が産出する、ジベレリンの影響で、「苗の黄化、徒長」「稲の茎葉の徒長、黄化」などが引き起こされます。
- ・発生後には防除ができないため、種子消毒等による適切な防除が大切です。

近年、県内の一部で、イネばか苗病菌に④「プロクロラズ乳剤 (FRAC コード3)」(商品名：スポルタック乳剤) が効かなくなってきました。また、プロクロラズ乳剤への感受性が低下している菌に対し、⑤「ペフラゾエート乳剤 (FRAC コード3)」(商品名：ヘルシード乳剤) や⑥「イプコナゾール (FRAC コード3)・銅水和剤 (FRAC コードM01)」(商品名：テクリードCフロアブル) は防除効果が高いことがわかりました。感受性低下が疑われる場合には、他の薬剤に切り替えましょう。

※本県では、⑦「ベノミル水和剤 (FRAC コード1) (ベンレート水和剤など) および⑧「トリフルミゾール水和剤 (FRAC コード3)」(トリフミン水和剤など) に対する耐性菌が確認されているため、使用しないようにしましょう。

※本田で発生すると、株もとに多量の胞子を形成して伝染源となります。発生した株はすぐに抜き取りましょう。



イネばか苗病

2. 育苗期に発生する病害への対策について

(1) 主な病気と原因・症状

病気の種類	主な症状	主な発生原因
苗立枯病 (リゾプス菌)	床土の表面が白色のカビで覆われ、やがて灰白色になる。	出芽時の高温 (30℃以上)
苗立枯病 (ピシウム菌)	坪状に発生し、地際部が水浸状に褐変腐敗し、地上部は萎凋・枯死する。	緑化期の低温 (10℃以下)
苗立枯病 (フザリウム菌)	モミを中心に白色～淡赤色のカビが発生する。	緑化期の低温 (10℃以下)
糊枯細菌病	茎基部の褐変、白化、葉身基部の白化などの症状が坪状に発生し、枯死する。芯葉を引っ張るとするっと抜け基部に褐色帯がみられる。	高温 (30℃超) 多湿 汚染土壌、罹病種子の使用
ばか苗病	第一葉鞘、新葉が徒長する。	罹病種子の使用 高温多湿
ムレ苗	日中葉身が針状に巻き、次第に黄褐色に変わり、ひどくなると褐変枯死する。	急激な温度変化 (低温が2～3日続いた後に高温)、多湿

(2) 対策

病気の発生を未然に防ぐことが最も重要です。適切な温度、水管理により発病しにくくするとともに各病気に予防効果のある農薬を使用してください。また育苗箱等の消毒を行うとともに毎年の種子更新と種子消毒を必ず行ってください。

発病してしまった場合、(特に被害程度が大きい時) 播き直しや他者からの苗の確保を検討してください。

被害程度が小さく、一部のみが発病している場合は、病株を廃棄し、適正な管理を行います。また苗立枯病 (ピシウム菌)、苗立枯病 (フザリウム菌)、ムレ苗については下表の農薬を健全な苗に処理します。さらにムレ苗の場合には2葉以上で移植が可能になったら、できるだけ早く移植します。

表

薬剤名	適用病害又は使用目的	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
タチガレエースM液剤	苗立枯病(ピシウム菌)、苗立枯病(フザリウム菌)、ムレ苗防止	500~1000倍	土壌灌注	は種時又は発芽後	1回

1 2021年4月7日現在の登録内容です。

2 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

3 農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

4 また、農薬の安全評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにとともに、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法が変更された農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシなど、最新の方法に従って使用して下さい。最新の情報は、農薬の販売店や茨城県病害虫防除所のホームページ等で確認して下さい。

3. 水稲初期管理について（初中期除草剤の有効な使用と分けつ促進）

1. 初中期除草剤使用時の注意

水稲の初中期除草剤を使用する農家の方が多いのですが、せっかくの除草剤も水管理を適正に行わないと、その性能が十分発揮されません。

除草剤散布後、10～14日深水管理を行ってください。露出した田面は、除草剤の効果が低下し、雑草が繁茂します。

田面が露出しそうなときは、入水して水深を確保しましょう。ただし、オーバーフローすると除草剤成分が流出して効果が低減します。注意して入水しましょう。



除草剤(初中期剤)施用後、田面露出した部分は、水田雑草が繁茂する。



除草剤の施用 ⇒ 除草効果確保のため深水管理
⇒ 分けつ促進のため浅水管理(写真)

2. 分けつ開始後は、中干し時期まで浅水管理

除草剤の効果を十分発現させた後は、初期生育「分けつ」を促進するため、浅水(2～3cm程度)にしましょう。浅水の方が地温が上昇し易いため温度確保が可能となります。

特に、天候が不順で「分けつ」が不良の場合は、浅水管理により地温を高めて、茎数を確保しましょう。



3. 置き苗は早めに廃棄

置き苗はイモチ病の発生源になります。

田植え終了後は、すみやかに水田外へ除去して下さい。

